

荻町城跡展望台

荻町城跡展望台からは、白川郷の中心集落であり、世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」の一部となっている荻町の集落を一望することができます。丘の上の展望台の下に広がる風景には、急傾斜の三角屋根が特徴の合掌造りの住宅が点在しており、一年を通して印象的な光景を織りなします。集落を見渡すと、合掌造りの家の多くが南北方向に建てられていることがわかるでしょう。これは、茅葺き屋根の日照量を最大にするためと、通常は庄川溪谷から北と南方向から吹き付ける強風から背が高く細長い構造物を守るためで、南北方向に建てられていない合掌造りの家は、おそらく他の地域から荻町に移築されたものでしょう。また、展望台から見ても明らかなのは、川の谷間には耕作地が比較的少ないということですが、これも荻町の特徴です。この地の人々は、農業だけでは生計を立てることができなかったため、江戸時代（1603-1867）中期には養蚕を取り入れ、これが主な収入源となりました。合掌造りの家は、その採光性が高く多層構造となっていた屋根裏部屋という空間が養蚕に最適だったことから人気が高まりました。